

序
解説

松田利彦 3
松田利彦 9

第一部 研究の現状

「知と権力」からみた植民地帝国——朝鮮史研究における成果と課題——
「台湾島史観」から植民地の知を再考する
——植民地台湾における「知と権力」をめぐって——

松田利彦 23
陳 姫 浚 65

第二部 植民地化と知の再編

法学者・岡松参太郎の台湾経験と知の射程
——植民地統治と「法の継受」をめぐって——

春山明哲 101

領台初期の原住民調査

中生勝美 141

俳文学、知識、植民統治の交錯

顔 杏 如 193

——『台湾歳時記』の編纂とその植物知識の系譜——

日本統治期における台湾人家族法と植民地統合問題

曾 文 亮 235

「帝国」としての民法学へ——京城帝国大学の民法学者を中心に——

岡崎まゆみ 261

第三部 植民地官僚の知と植民地在留日本人の知

高等農林学校と植民地の知

やまだあつし 295

——鹿児島高等農林学校での田代安定の講義を中心に——

農村振興運動と八尋生男の政策思想

本間千景 327

日本統治期台湾総督府における技術官僚の出自と活動分析

蔡龍保 365

——土木技師を例として——

雑誌『朝鮮仏教』誌上に見る日朝仏教の葛藤

川瀬貴也 421

——一九二〇年代後半を中心に——

女性植民者と帝国の「知」——台湾における田中きわの——

宮崎聖子 453

第四部 帝国の知と欧米世界の知

植民地官僚の統治認識——知と権力の観点から——

加藤道也 489

志賀潔とロックフェラー財団

松田利彦 523

——京城帝国大学医学部長時代の植民地朝鮮の医療衛生改革構想を中心に——

日本の植民地医学から東アジア国際保健機構へ

劉士永 567

戦前期における法学者・鶴飼信成の法学研究についての一試論

長沢一恵 587

——資本主義発達期の社会をめぐる政治と法の問題を中心に——

第V部 被支配民族の知

朝鮮の開化派官僚・尹雄烈が描いた近代と日本

山本浄邦 639

忘れられた独立運動家、李達——一九一〇年代の東アジア思想空間の断面——

小野容照 663

植民地台湾からの「留学生」郭明昆——知の構築と実践を中心に——

紀旭峰 695

台湾における近代性と民族性の葛藤

何義麟 717

——作曲家鄧雨賢の人物像の変容を中心として——

第VI部 脱植民地化／脱帝国化と知の再編

戦後朝鮮統治関係者による朝鮮統治史編纂——友邦協会を中心に——

李炯植 743

満洲医科大学における医学博士学位授与について

通堂あゆみ 777

——終戦後授与学位に注目して——

日本の帝国大学における朝鮮人留學生の状況と帝国知識の連続／非連続

鄭鍾賢 835

——東京帝国大学卒業生崔應錫、李萬甲の事例を中心に——

白麟濟の近代認識と自由主義

朴潤栽 855

崔虎鎮の韓国經濟史研究と東洋社会論

宋炳卷 869

普成専門学校から金日成綜合大学へ

洪宗郁 899

——植民地知識人・金洸鎮の生涯と經濟史研究——

共同研究「植民地帝国日本における知と権力」報告一覧

国際研究集会「植民地帝国日本における知と権力」プログラム

あとがき

索引（人名・事項）

執筆者紹介

序

松田利彦

一九世紀後半以降における日本の国民国家形成の過程は、国内的には西欧近代知識の吸収と義務教育を通じて知識の普及という側面をもち、対外的には東アジア各地域への膨張ともなった。近年の日本植民地研究において「知」をめぐる歴史学的考察は、もつとも活況を呈している領域の一つであるが、それは、こうした近代日本の国家形成にともなう「知」の蓄積と対外拡張とのあいだに密接な関係があったことが次第に意識されるようになってきたためだろう。

この分野の研究は、軍事的・経済的侵略とは異なる文化的要素を通じて植民地を支配する植民地「近代」の特性、そしてそれを合理化し内面化させる知識のつくられ方に注目するようになってきている。⁽¹⁾ こうした観点はしばしば欧米のポストコロニアル研究に影響を受け、従来の収奪や暴力を強調する研究とは別個の次元で論じられる傾向がある。しかし、両者を切り離して考えることは、植民地支配の性格を理解するうえで必ずしも有効ではないだろう。むしろ、日本が「近代性」を植民地に導入し知のヘゲモニーを掌握しようとしたことが、どのような暴力性ともなっていたのかを問い直すことによって、植民地支配に内包される暴力性の範囲をさらに拡張させるとらえる視角が求められているのだと考えたい。たとえば、植民地現地に対する近代的な学術調査は警察機関の助力を得てなされたことに象徴されるように、「知」と物理的暴力はときに結びつきながら植民地支配を成立させていた。本書が、「知と権力」という切り口から、植民地における「知」の問題と権力―暴力の問題とを同じ

組上に載せて論じようと試みたのは、そのような考えにもとづいている。

ミシエル・フーコーの有名な言葉「権力は遍在する」を引くまでもなく、「知と権力」の範疇に属する問題群は多様で膨大である。日本は、周辺地域の植民地化にあたって、本国で高等教育を受けた官僚や学者を大量に送りこみ統治を行なった。彼らの統治の基礎にあった「知」は、本国での政治経験や現地の慣習調査、西欧列強の植民地支配の事例研究など多岐にわたる。他方で、植民地の被支配民族内部にも「知」は形成された。植民地統治の対象となった台湾・朝鮮の民族は前近代において中華世界秩序に組みこまれて儒教・漢文を基礎とする独自の「知」を各地域で紡ぎあげていた。このような意味での「伝統」は、植民地化以降、植民地権力の「知」に対する抵抗のよすがともなり、場合によっては植民地権力による調査・利用の対象ともされた。それとともに、日本を主たる媒介として流入してきた近代的「知」は、被植民者のなかにも新しい知識人層を生みだした。このような流れは、特に一九二〇年代、朝鮮と台湾に相次いで植民地大学が設立されたことで加速した。こうしたことを踏まえ、本書は、植民地権力と被支配民族にまたがりつつ、重層的に形成された広い意味での「知」が植民地統治を規定した諸相を描きだすことをも目指している。

さて、植民地における「知」への関心の火付け役となったのは、周知のように、『岩波講座「帝国」日本の学知』全八巻（二〇〇六年）である。植民地帝国日本における「知」のあり方を学際的に論じた同講座のとりあげたテーマは多様である（本書所収の陳延浚「台湾島史観」から植民地の知を再考する——植民地台湾における「知と権力」をめぐって——）において、各巻の議論に言及する。同時に、『帝国』日本の学知』には全体としてはかなり一貫した視角があり、それが魅力となつているとともに、そこに十分組みこみきれなかった論点が今後の課題を指し示している。本書は、後述のように国際日本文化研究センターの共同研究「植民地帝国日本における知と権力」から生まれた成果報告書だが、我々の共同研究会も、まずこの浩瀚なシリーズに敬意を払いつつ、その残し

た課題を検討するところからはじまった。

『帝国「日本の学知」』では、「近代日本における学知の生成と展開を歴史的脈の中に位置づけ」ることが課題に設定されている。⁽²⁾ たしかに、第一巻「帝国」編成の系譜 所収の酒井哲哉論文は大正期の社会民主主義論・植民政策学が戦後の国際関係論に変容していく過程を描いている。⁽³⁾ 第三巻（東洋学の磁場）所収の吉開将人と下田正弘のそれぞれの論考は、東亜考古学の成立史、仏教学というディシプリンの形成を論ずる。⁽⁴⁾ 実践技術を扱った第七巻（実学としての科学技術）でも田中耕司・今井良一は、西欧から日本への農業技術の移入と消化と植民地への拡大を論じ、飯島渉は、寄生虫学の導入と日本化および植民地医学への拡散を検討している。⁽⁵⁾

また、そうした近代日本における学知の生成と展開において、とりわけ第二次世界大戦期を重要な転換点と位置づける視角も複数の論文に共通する。⁽⁶⁾ このようにして、『帝国「日本の学知」』は、人的な連続とディシプリンにおける断絶を基本的な枠組みとしつつ、学知の連続と断絶の位相を鮮やかに描き出している。⁽⁷⁾

しかし反面、「帝国」の範囲の捉え方や比重の置き方は論者によってまちまちである。たとえば、第二巻「帝国」の経済学 所収の諸論文は、欧米を中心とした国際秩序・世界資本主義の中での日本の経済思想・政策を考察しているが、こうした空間設定のために「帝国」日本という視角が抜け落ちているとの批判も受けている。⁽⁸⁾ また、第八巻（空間形成と世界認識）では、世界・アジアの中の日本という空間認識の形成が主たるテーマとなっており、「帝国」という枠組みはいったん外されている。

このように、植民地「帝国」という観点が必ずしも貫徹していないことは、近代日本の学知と植民地との相互の影響関係をどのように理解するかという課題を残すことにつながっているように思われる。⁽⁹⁾ アジア規模の思想や学知の交流や緊張関係を、中心（日本「内地」）から周縁（日本以外の東アジア諸地域）への思想の伝播・影響関係という視点のみで捉えることの限界はすでに何人かの論者が指摘するところである。⁽¹⁰⁾ また、近年の台湾・朝鮮

近代史研究においては、民族・国家を所与の概念として前提せず、外部世界との接触・交渉のなかで形成されたという立場が確かな地歩を固めている¹⁾。各方面からこのように提唱されているトランスナショナルな視角設定は、学知の研究においても求められているところだろう。

かくして、近代日本の学知の問題を日本内部におけるディシプリンの形成と継承という点に限定せず、日本と植民地あるいはより広い外部世界との相関関係で捉えようとしたとき、いくつかの重要な問題が想起される。我々が共同研究において徐々に輪郭を描き練り上げていった問題意識は、さしずめ以下のように整理できる。

第一に、単に学者や専門的技術者のもつ「学知」に限定せず、植民地における権力関係を形成し支えた「知」の担い手を植民地官僚や在留日本人などに広げて捉える枠組みを設定した。これによって、植民地主義的な「知」が、学問的な場にとどまらず現実の支配政策とどのように連関したかを本書では論じることになった（第Ⅲ部）。これと関わって第二に、日本が植民地支配に活用した膨大な「知」の多くは西欧起源のものであった。したがって、植民地帝国日本の「知」を扱う際には帝国内部に議論を限定するのではなく、帝国の「知」と西欧世界の結びつきを検討することも重要な論点となる（第Ⅳ部）。

第三に、近代日本の学知を植民地民族・社会との関係で立体的に捉えるためには、まず、そもそも植民地化以前の台湾・朝鮮の知的土壌・慣習が、どのように近代的な「知」によって観察され調査され再編されていったかという問題を避けて通れない（第Ⅱ部）。その一方で、被支配民族の側でも、主には日本を通じて、近代的知識を獲得した。それは、日本の植民地支配に対して対抗的な性格をもちつつ、しかし時に共犯的な関係を結ぶ。このような被支配民族の複相的な「知」の面貌を読み解くことは、知・学知の研究を一国的な枠組みから解き放つうえで不可欠な作業となると考える（第Ⅴ部）。さらに第四点として、このような問題設定は、必然的に戦前／戦後、解放（光復）前／解放（光復）後というより広いタイムスパンでの考察をとまなうことになる。被支配民族

に刻印された「知」と支配民族が形成した「知」は、植民地期で完結したわけではなく、脱植民地化／脱帝国化の過程でさらなる変容をとげるようになったからである。植民地主義的な知の解放後／戦後における連続と断絶も本書にとって重要な論題となった（第Ⅵ部）。

以上のように、本書は、台湾と朝鮮を主な相互参照の対象としつつ、植民地統治における知と権力をめぐる問題に、いくつかの新しい問いを投げかけることとなった。

最後に、本書の成り立ちについて簡単に説明しておきたい。本書は、五年間にわたる国際日本文化研究センターの共同研究「植民地帝国日本における知と権力」（二〇一三―二〇一七年度）を基盤としている。また、共同研究会での報告だけでなく、共同研究の一環として二〇一七年一〇月に開催した国際研究会「植民地帝国日本における知と権力」の発表も一部収録している（巻末の「共同研究「植民地帝国日本における知と権力」報告一覧」〔国際研究会集會プログラム〕を参照）。

共同研究会での報告および国際研究会での発表は、政治・宗教・教育・文学・人類学・医学など、さまざまな分野にまたがる。個々のディシプリンは単に研究対象が異なるというばかりでなく、たとえば、植民地期と一九四五年以後を俯瞰することに比較的積極的な分野とそうでない分野があるように、アプローチの仕方自体が違ふこともしばしばある。また、たとえ同じ学問分野でも、台湾史と朝鮮史における対象の切り取り方は往々にして異なる。比較研究の視点から植民地研究にのぞんだことのある研究者は誰しも感じるところだろう。共同研究会では「植民地帝国日本における知と権力」というテーマのもと、おおよそ百本の報告を重ねたことよって、職員はいくばくかでも自身のたずさわる研究分野の射程と限界を意識し相対化しえたのではないかと思っている。本書の読者が、そのような共同研究の雰囲気を感じていただければ編者としては望外の喜びである。

- (1) 許英蘭「二〇〇八～二〇〇九年度 日帝植民地時期 研究의 現況과 課題」(『歴史学報』第二〇七輯、二〇一〇年) 四〇頁。許洙「새로운 歴史認識과 方法論의 模索——日帝植民地時期 研究의 現況과 展望——」(『歴史学報』第二二三輯、二〇一四年九月、五七頁)。
- (2) 酒井哲哉「編集にあたって」(酒井編『「帝国」日本の学知』第一卷、岩波書店、二〇〇六年) v頁。
- (3) 酒井哲哉「帝国秩序」と「国際秩序」——植民政策学における媒介の論理——(同前書)。
- (4) 吉開将人「東亜考古学と近代中国」、下田正弘「近代仏教学の展開とアジア認識——他者としての仏教——」(岸本美緒編『「帝国」日本の学知』第三卷)。
- (5) 田中耕司・今井良一「植民地経営と農業技術——台湾・南方・満洲——」、飯島渉「宮入員の物語——日本住血吸虫病と近代日本の植民地医学——」(田中耕司編『「帝国」日本の学知』第七卷)。
- (6) 全京秀「植民地の帝国大学における人類学的研究——京城帝国大学と台北帝国大学の比較——」、白杵陽「戦前日本の「回教徒問題」研究——回教圏研究所を中心として——」(岸本編、前掲『「帝国」日本の学知』第三卷) など。
- (7) 飯島渉「書評 末廣昭責任編集 岩波書店『地域研究としてのアジア』 岩波講座「帝国」日本の学知 第六卷」(『中国研究月報』第六一卷第五号、二〇〇七年五月)。
- (8) 三和良一「書評 杉山伸也編 岩波講座「帝国」日本の学知 第二卷「帝国」の経済学」(『三田学会雑誌』第一〇〇巻第一号、二〇〇七年七月)。
- (9) この点については、飯島、前掲書評(註7)にも論及がある。
- (10) 米谷匡史「戦時期日本の社会思想——現代化と戦時変革——」(『思想』第八八二号、一九九七年二月)、戸邊秀明「ポストコロニアリズムと帝国史研究」(日本植民地研究会編『日本植民地研究の現状と課題』アテネ社、二〇〇八年) 六八頁。
- (11) 許洙、前掲論文、七五頁。
- (12) 発表者の意向により本書に収録しなかった国際研究会の発表は、国際日本研究センターのウェブサイトで公開している (<https://nichibun.repo.nii.ac.jp/>、二〇一八年一〇月閲覧)。
- (13) 台湾史と朝鮮史の研究成果を概観しつつそれぞれのアプローチの違いに目を向けた研究史整理の試みとして、松田「統治機構と官僚・警察・軍隊」(日本植民地研究会編『日本植民地研究の論点』岩波書店、二〇一八年)も参照されたい。

本書は、国際日本文化研究センター（日文研）の共同研究「植民地帝国日本における知と権力」の成果報告書である。私が主宰した共同研究の成果報告としては、『日本の朝鮮・台湾支配と植民地官僚』（松田・やまだあつし共編著。思文閣出版、二〇〇九年）、『地域社会から見る帝国日本と植民地——朝鮮・台湾・満洲』（松田・陳延媛共編著。思文閣出版、二〇一三年）に次ぐ三冊目となる。十年を超える時間をかけたこれらの書を通じて、人・社会・知という植民地帝国日本に切りこむ糸口を示し、いくばくかでもその歴史像を深めたいと考えてきた。

三回の共同研究ごとに班員の顔ぶれはかなり入れ替わったとはいえ、変わることはない熱心な研究姿勢が、このような地道な研究を支えてくれたことを研究代表者として大変ありがたく思っている。特に今回の共同研究は、日文研の所長裁量経費の支援を受け「国際共同研究」のパイロットケースとして実施された。三〇名ほどの共同研究班員には、一〇名前後の韓国・台湾からの海外共同研究員が参加しており、共同研究会での議論に加わっていただいた。のみならず、共同研究一覧に記したように、台湾・中央研究院台湾史研究所との合同ワークショップ（二〇一五年一〇月）、韓国・翰林大学校との共催シンポジウム（二〇一六年六月）を開催することもできた。

三次にわたる共同研究は、常に「相互参照」という考え方を重視してきた。台湾植民地史研究と朝鮮植民地史研究が一見似通った歴史事象を扱いつつ、時にまったく相反する評価を下していることは、この分野の研究者ならばまま目にしたことがあるだろう。そのような研究視角の食い違いを自覚するために、（一足飛びに植民地台湾と朝鮮の比較研究に走るのではなく）まずは台湾史研究者と朝鮮史研究者のそれぞれの歴史観や問題意識を持ち寄り相対化する——そのような緩やかな方法論を意味するものとして、「相互参照」は共同研究の場における合

言葉となった。本共同研究にとって、先ほど述べた国際共同研究という枠組みのもとで実現できた台湾・韓国
研究者との密度の高い交流は、「相互参照」を通じて、個々の班員それぞれが自明としてきた枠組みを揺り動か
す機会となったのではないかと思う。

もとよりそのような問題意識が共同研究会での議論の場を超えて、本書所収の各論文に確実に反映されている
かといえば、研究代表者としては心許ない面もある。むしろ、「台湾史」―「朝鮮史」(―「日本史」)の間にある
高い壁のほうを読みとる読者もいるだろう。その意味では、「植民地帝国」「帝国日本」をかかげたこれまでの共
同研究は、いまだ問題提起にとどまっているというべきかも知れない。遅々とした歩みには忸怩たるものがある。
と同時に、このように息の長い取り組みこそが、学問研究の本領ではないかという気持ちもある。多分に言い訳
を含む自負としかいいようがないが、読者諸賢の批正を請いたい。

なお、日文研では、二〇一八年度から共同研究会に対する外部評価制度を導入し、四名の外部委員による年
次点検(進捗評価・終了時評価(総合評価))を行っている。この共同研究も年次点検を受け幸いに高い評価をい
ただいたこと、ならびに、成果報告書である本書も追って終了時評価を受けることになっていることを附記して
おく。

最後になったが、日文研の研究協力課・図書館をはじめとするスタッフの皆さまには、共同研究をサポートし
続けて下さったことに感謝申しあげたい。また、学術書の出版事情が厳しい折、研究成果の公刊を今回も快くお
引き受け下さった思文閣出版の田中峰人さん、編集に携わって下さった秦三千代さんに深く御礼申し上げます。

松田利彦

連合国軍最高司令官総司令部 →「GHQ」
を見よ

ろ

ロックフェラー医学研究所(Rockefeller
Institute for Medical Research)

525, 530, 534, 559

ロックフェラー財団(Rockefeller Foundation,
RF) 14, 15, 523~530, 532, 533, 536~

553, 556, 557, 559, 561, 563~565,
569, 570, 572~579, 583, 850, 851

——国際保健委員会(International Health
Board, IHB、後に国際保健部 Inter-
national Health Division, IHD)

526, 527, 572~574, 578

——中国医療財団(China Medical Board,
CMB)

526, 537, 538, 573

ローマ法

102, 108, 116, 121, 127, 244, 255, 589

ロンドン衛生熱帯医学大学院(London
School of Hygiene and Tropical
Medicine)

539

六三法 →「六三問題」を見よ

六三問題 103, 111~114, 134, 141, 679

六原道場 349, 354~356

わ

ワイマール憲法 589, 590, 596, 625

早稲田大学 17, 48, 102, 159, 160, 188,
234, 484, 697, 700~705, 707~710,

713, 714, 772, 773, 842, 843

早稲田第二高等学院

17, 695, 699, 700, 704, 712

『和漢三才図会』

204, 208, 215, 216, 218, 232

『和名抄』 204, 215, 216, 232

『禍なる哉、汝法律家よ!』(Fred Rodell,
Woe Unto You, Lawyers!) 614, 618

119~126, 135, 136, 157
 法院 →「台湾総督府法院」, 「朝鮮総督府裁判所」を見よ
 奉天日本人居留民会 788, 793, 798, 807
 望春風 717, 729, 731, 733
 北蕃 168, 173
 北海道帝国大学 →「札幌農学校」を見よ
 本草学 10, 204, 206, 213, 215, 216, 219, 223

ま

マーベリー対マディソン事件 616
 マルクス主義 20, 32, 39, 44, 45, 664, 745, 836, 848, 849, 851, 891, 899, 900, 903, 904, 907, 910, 918, 926
 『媽祖信仰の研究』 709
 満洲医科大学 18, 777~807, 809
 満洲事変 287, 463, 467, 471, 602
 満鮮歴史地理調査部 705, 713
 満鉄 →「南満洲鉄道株式会社」を見よ
 満蒙文化研究会 36

み

ミネソタプロジェクト(Minnesota Project) 525
 『緑珊瑚』 199
 南満洲鉄道株式会社(満鉄) 18, 126, 150, 152, 188, 471, 494, 497, 559, 705, 713, 777, 778, 783~785, 789, 799
 民事判例研究会(京城帝国大学) 273~275, 278, 280
 民事法判例研究会(東京帝国大学) 273
 『民主朝鮮』 757
 『民俗台湾』 78
 民法 11, 27, 28, 101, 103, 105~109, 115, 122~124, 127, 134, 136, 149, 150, 156, 181, 237, 239, 241, 242, 251~256, 262~269, 271~286, 289~291, 516, 605

む・め

霧社事件 131

メイヨークリニック(Mayo Clinic) 561
 メキシコ革命 621, 622, 626
 明治憲法 →「憲法」を見よ
 明成皇后殺害事件(乙未事変, 閔妃殺害事件) 654

も

蒙疆学術探検隊 36
 盛岡高等農林学校 302, 303, 320, 324

や

山形県立自治講習所 →「自治講習所」を見よ
 『大和本草』 204, 215, 218, 232
 両班(ヤンバン) 16, 28, 639, 644, 645, 659

ゆ・よ

『ゆうかり』 222, 234
 友邦協会 18, 46, 743~745, 747, 749~771
 養媳 →「媳婦」を見よ

ら・り

『礼記』 224, 703
 リアリズム法学 15, 588, 589, 609, 614, 615, 618, 620~622, 624, 626, 633, 634
 『理蕃策原議』 156, 172
 理蕃事業 128, 132, 146, 148, 156
 立教大学 48
 旅順工科大学 778, 783, 802
 緑旗連盟 37, 43, 454
 臨時台湾旧慣調査会 9, 10, 81, 102, 103, 110~112, 115, 117~120, 122, 126~129, 148~150, 153~159, 163, 166~168, 175, 178, 179, 188, 190, 191, 200, 213, 221, 237~239, 243~246, 253~255
 臨時台湾土地調査局 104, 115, 116

れ

連合国救済復興機関(United Nations Relief and Rehabilitation Administration, UNRRA) 576

日韓会谈 749, 759~762, 765, 769, 772
日韓基本条約 18, 764
日韓協約(第三次) 657
日韓経済協会 765, 774
日韓合弁特銀 752
日韓親和会 769
日新学校 900~902
日清戦争/日清講和条約 111, 134, 202,
369, 471, 472, 489, 654, 777
日中戦争 358, 359, 475, 594, 601, 603,
614, 728, 838
日朝修好条規 646
日米医学交通委員会 533
日本共産党 688, 747, 756, 772, 849
日本銀行 751, 762, 765, 769
日本常民文化研究所 →「アチック・ミ
ューゼウム」を見よ
日露戦争 120, 351, 422, 428, 448, 472,
475, 489, 493, 497, 657, 685

の

ノースウェスタン大学 615, 633
農家現況調査書 329, 334~336, 345, 359
農村経済更生運動(農山漁村経済更生運
動, 内地)
12, 329~332, 341, 349, 358, 362
農村振興運動(農山漁村振興運動, 朝
鮮) 12, 327~359
農民道 12, 330, 349~354, 356, 357, 359

は

『はな』 207~209, 229
ハーバード燕京研究所(Harvard-Yenching
Institute) 851
ハーバード大学 559, 609, 615, 631~633
パイワン(族) 129, 133, 149, 162, 168, 178
~181, 184, 191
パリ不戦条約 →「ケログ=ブリアン
協定」を見よ
パンデクテン(編成) 107, 108, 115
『俳諧歳時記』 204, 215, 218, 224
汎太平洋学術会議(Pan-Pacific Science
Congress) 542

阪神教育闘争 746, 758
『蕃族慣習調査報告書』 10, 129, 142, 149,
153~155, 166~182, 191
蕃害 145~147, 168, 175
蕃社台帳 145, 185
『蕃族図譜』 127, 129, 149
『蕃族調査報告書』 10, 129, 142, 149, 153,
154, 158, 161~165, 182

ひ

非識字率 12, 329, 330, 333, 341, 342, 359
東本願寺 647, 649, 650, 655, 656, 660
一橋大学 902, 903, 907, 916 →「東京商科
大学」も見よ

ふ

ブヌン(族) 129, 133, 162, 168, 180, 188
父系主義 132~134
富士銀行 762
普成専門学校 20, 846, 873, 878, 879, 890,
891, 893, 894, 908~913, 916, 917,
926, 937
普通学校卒業生指導 →「卒業生指導」
を見よ
『福音新報』 697, 711
仏教朝鮮協会 425
文化政治 13, 423, 424, 426, 603, 838
文官高等試験 →「高等文官試験」を見
よ

へ

北京協和医学校 →「協和医学校」を見
よ
北京大学 704, 707
平壤高等普通学校 901, 917
平壤中学 847
平埔族 152, 177, 230
別技軍 16, 649~651, 660

ほ

ポーランド(波蘭) 492, 494, 495, 510
母系主義 127, 132~134, 152
法案審査会(台湾)

朝鮮総督府中央試験所 857
 『朝鮮の農村衛生』 848, 849
 朝鮮農村社会衛生調査会 848
 朝鮮引揚同胞世話会 771
 『朝鮮仏教』 13, 422, 426~428, 430, 434, 435, 440, 442, 443, 446
 朝鮮仏教大会 13, 426, 428
 朝鮮仏教団 426, 428~430, 434
 朝鮮防衛委員会 747
 朝鮮民事令 11, 28, 262, 270, 275, 278, 279, 286
 朝鮮民主主義人民共和国科学院(朝鮮民主主義人民共和国社会科学院) 19, 45, 835, 840, 841, 843, 846, 916, 920, 922
 朝鮮問題検討会 687, 688
 朝連 → 「在日本朝鮮人連盟」を見よ
 つ
 ツォウ(族) 129, 154, 162, 168, 175, 177, 178, 181
 通訳 77, 117, 145, 162, 163, 169, 173, 191, 377, 429, 542, 547, 549, 704, 712, 726
 て
 丁卯胡乱 643, 644
 天道教 32, 341, 441, 443, 936
 天理教 441
 伝染病研究所 → 「北里研究所」を見よ
 転向 23, 43, 44, 875
 電気事業連合会 765
 と
 同志社大学 450, 608, 612
 同姓不婚 269, 270
 同民会 429, 430
 同和協会 744, 747~749, 751, 753, 759, 770, 771
 東亜協同体論 43
 『東亜時論』(『革新時報』) 16, 668, 669, 671, 672, 674~677, 679, 681, 685, 689, 690
 東亜聯盟運動 44

東京銀行協会 753, 762, 765, 774
 東京山林学校 → 「東京帝国大学農科大学」を見よ
 東京商科大学 20, 710, 890, 902~908, 918 → 「一橋大学」も見よ
 東京大学社会科学研究所 588, 610
 東京帝国大学(東京大学) 15, 16, 29, 30, 37, 45, 48, 163, 186, 188, 263, 265, 316, 369, 375, 381, 382, 395, 533, 540, 545, 563, 588~590, 608, 610, 611, 628, 630, 697, 699, 710, 773, 835~845, 847~851
 ——農科大学 295, 296, 302, 327, 330, 360
 東京農林学校 → 「東京帝国大学農科大学」を見よ
 東国大学校 841, 870, 879
 東西医学研究会 40
 東北帝国大学 264, 836, 842, 843
 ——農科大学 → 「札幌農学校」を見よ
 東洋史会 17, 695, 705, 713
 『東洋思想研究』 695, 707
 東洋思想研究室 700, 705, 706, 713
 東洋青年同志会 16, 666, 668, 669, 671, 673, 677, 679, 681
 独立協会 658, 659
 な
 『内外実用植物図説』 204, 207, 209
 中村屋 704
 『南国青年』 456~458, 460, 462
 南国青年協会 456~458, 460, 461
 南蕃 163, 168
 南満医学堂 544, 546, 784, 785, 805
 に
 ニュー・スクール(New School for Social Research) 609
 ニューディール 15, 618~620, 622~624, 626, 633
 二高 → 「第二高等学校」を見よ
 二・八独立宣言 16, 667, 680, 681, 683~687

会」を見よ
 台湾教育会 212, 218, 231, 467, 469
 台湾銀行 234, 378
 台湾戸籍令 167, 239
 台湾合股令 9, 120~122
 『台湾歳時記』 10, 193~224
 『台湾私法』 10, 102, 103, 109, 115~119,
 122, 123, 142, 156~158, 166, 168,
 173, 182, 237, 245
 『台湾重要農作物調査』 204, 209, 211
 台湾省行政長官公署 390, 391, 738
 『台湾植物目録』 209~211, 229, 230
 台湾親族相続令 9, 103, 120, 123, 135
 『台湾青年』 241, 256, 679, 697, 711
 台湾総督府医院 559
 台湾総督府医学校 559
 台湾総督府高等法院 241, 251
 台湾総督府法院 10, 238~240, 243, 245,
 251~254 → 「台湾総督府高等法院」
 も見よ
 台湾通信社 13, 456, 457, 460, 465, 467,
 475~477, 480
 台湾電力株式会社 366, 381, 382, 388, 468
 『台湾統治志』 78
 『台湾日日新報』 75, 83, 196, 197, 199,
 202, 208, 217~221, 248, 456, 457, 463,
 494, 495
 『台湾蕃人事情』 115, 144
 『台湾蕃族慣習研究』 10, 102, 103, 126~
 134, 149, 178, 180~182
 『台湾蕃族志』 129, 149
 『台湾府志』
 204, 206, 213~215, 219, 227, 231, 232
 『台湾文芸』 704, 706, 707, 728
 台湾文芸連盟 726, 728
 第一銀行 264, 762, 774
 第一次世界大戦 14, 16, 32, 47, 157, 241,
 332, 489, 499, 500, 508, 509, 523, 524,
 530, 532, 552, 553, 569, 618, 621, 622,
 625, 626, 670, 673, 674, 685
 第一高等学校 496, 503, 517, 521, 663, 676,
 769, 839, 847
 第二高等学校 588, 808, 839

第三高等学校 839, 840
 『高砂族パイノ木の民芸』 179, 180
 拓務省 498, 785
 淡水中学 457, 474
 檀君 30, 42, 43, 47

ち

血のメーデー事件 755, 756
 中央大学校(韓国) 870, 879, 884
 中央朝鮮協会 748, 769, 770
 中央日韓協会
 46, 744, 749, 753, 761, 769, 771
 中国共産党 663, 677
 中署洞商業専門学校 657
 中枢院 28, 31, 439, 654, 771
 『注釈民法理由』 107, 149
 『朝鮮医学会雑誌』 856, 860
 『朝鮮開教五十年誌』 650
 朝鮮学運動 38, 39, 45
 朝鮮学術院 19, 45, 835, 840, 841, 843,
 880, 912
 朝鮮共産党 688, 907, 914
 朝鮮銀行 745, 748, 750~753, 764, 769,
 771, 772
 朝鮮刑事令 26
 朝鮮研究所 748, 749
 朝鮮語学会 40
 『朝鮮史』(朝鮮史編修会刊行) 28
 朝鮮史編纂委員会 28, 31
 朝鮮史編修会 28, 30, 39, 42, 78
 朝鮮事業者会 770
 朝鮮社会事情研究所 907
 朝鮮神宮 47, 247
 朝鮮戦争 46, 578, 747, 748, 752, 755, 757,
 768, 850, 873, 882
 朝鮮総督府医院 14, 523, 527, 529, 531,
 532, 536, 537, 540, 542, 543, 545, 548,
 550~553, 563, 564
 朝鮮総督府高等法院 268, 273, 276~281,
 285, 603
 朝鮮総督府裁判所 603~605, 607, 608, 630
 → 「朝鮮総督府高等法院」も見よ
 朝鮮総督府出張所 745

す

水利組合 603～605, 607, 630
吹田事件 755, 756

せ

セブランス連合医学専門学校(セブランス医専)
14, 525～529, 532, 536, 537, 553, 557
世界保健機関(World Health Organization, WHO) → 「WHO」を見よ
生存権 596, 597
「生蕃」 128, 144, 148, 150～152, 156, 157, 159, 181
青丘学会 30, 39
政教社 202, 203, 227
政変必敗六条 652
清和女塾 454
聖路加病院 524, 563
『赤嵌筆談』 204, 213, 214, 231
赤十字 470, 532, 548
赤痢血清標準会議 531, 534
宣教師 14, 38, 71, 81, 153, 524, 526, 527, 529, 530, 552, 553, 557, 725
善隣書院 705, 712

そ

ソウル大学校
44, 45, 525, 715, 841, 849～851, 879
祖国防衛隊 747, 755, 756, 768
宗族 183, 237, 238, 270～272
宗祧 238, 241, 242, 246, 248
相互安全保障法(Mutual Security Act, MSA) 578
『相思樹』 199, 226
曹溪宗 427
総督府医院 → 「朝鮮総督府医院」, 「台湾総督府医院」を見よ
媳婦／養媳
9, 103, 112, 117, 118, 123～125
卒業生指導
329, 333, 334, 346～349, 351, 352

た

タイヤル(族) 129, 130, 133, 144, 149, 154, 155, 162, 166, 168, 169, 172～176, 188, 190
タオ(族) 161, 183
大亜細亜協会 466, 483
大韓帝国
16, 26, 35, 656～658, 660, 666, 900
大韓民国学術院
19, 45, 835, 840, 841, 843, 870
大韓民国臨時政府 536, 667, 692
大公主義 19, 864, 866
大正デモクラシー 589, 593, 608, 626, 628
大審院 11, 273, 277, 278, 285
大成青年団 457, 458, 461, 462, 483
大租権 112, 115, 116, 255
大日本国防青年会 13, 455, 457, 458, 460, 465～469, 472～475, 477, 480, 483
大陸文化研究会 36
『台海采風図』 204, 213, 214, 218
『台東殖民地予察報文』 204, 209, 211, 230
台南高等工業学校 389, 390
台南商業専門学校 17, 699, 700, 711
台南第二中学校 17, 700, 703, 704
『台法月報』 181, 253
台北師範学校
17, 161, 717, 719～727, 731, 732, 735
台北工業学校(台湾総督府工業学校) 389
台北女子青年団 457, 459, 462～465, 473, 474, 477, 480, 483
台北帝国大学 11, 18, 37, 75, 79, 184, 186, 247, 249, 250, 258, 259, 264, 303, 322, 389, 390, 696, 710, 777～780, 783, 786, 791, 802, 803
『台湾』 199, 256, 457～461, 465, 467～469, 472, 474, 475, 480
『台湾慣習記事』 104, 116, 122, 151, 196, 200～202, 213, 217～219, 223, 238
台湾慣習研究会 104, 200, 202, 213
『台湾旧慣制度調査一斑』
104, 105, 115, 118
台湾旧慣調査会 → 「臨時台湾旧慣調査

Organization, LNHO)
 15, 524, 531, 532, 558, 569~577
 国民教育会 657
 国民政府 → 「国民党」を見よ
 国民総力運動 37
 国民党／国民政府 13, 65, 66, 368, 390,
 393, 524, 718, 722, 730, 733, 780, 792
 ~794
 黒龍会 499, 519
 駒場農学校 → 「東京帝国大学農科大
 学」を見よ

さ

サイシャット(族) 162, 175, 176, 184
 在外研究(員) 15, 258, 267, 302, 550, 588,
 608, 613, 624, 631
 在日本朝鮮人会館事件 758
 在日本朝鮮人連盟(朝連)
 18, 745~749, 771
 在日本朝鮮民主青年同盟 746
 祭祀公業 11, 73, 120, 183, 238, 241~244,
 246~250, 253, 254, 257~259
 札幌農学校
 209, 229, 295, 296, 302, 316, 320
 三・一運動 14, 29, 31, 42, 182, 423, 439,
 445, 448, 450, 502, 505, 527, 530, 533,
 536, 553, 603, 680, 683, 685, 757, 763,
 855, 856, 859, 863, 887, 900, 901, 926
 三高 → 「第三高等学校」を見よ

し

『シナ語講義』 705
 ジューエット・ハウス(Jewett House)
 611, 613
 ジュノー号事件 251, 457, 474
 ジョンズ・ホプキンス大学
 525, 530, 536, 551, 561, 563, 576, 577
 シンガポール伝染病情報局 → 「国際連
 盟極東支部シンガポール伝染病情報
 局」を見よ
 支那医学会(the 18th Biennial Conference
 of the China Medical Association)
 537

死後養子 275, 278, 279
 自彊会 847
 自治講習所 346~349
 『資本主義の神話』(Thurman Arnold, *The
 Folklore of Capitalism*) 621
 資本主義萌芽論 20, 869, 871, 876, 877,
 883, 886, 887, 889, 893, 924, 925
 実学(朝鮮) 39, 923~925
 『実用植物図説』 → 『内外実用植物図
 説』を見よ
 実力養成運動 660, 864
 社会科学院 → 「朝鮮民主主義人民共和
 国社会科学院」を見よ
 社会行政法 593~603, 625
 首善社 19, 861, 862
 『十五円五十銭』 757
 『重修台湾府志』 206, 227, 231, 232
 修信使 16, 646~648, 655, 659
 『諸羅県志』 204, 213, 214
 小租権 116
 城大征伐 264, 265
 樟脳 143, 145, 146, 148, 169, 176, 295, 492
 植民地近代(性) 32~34, 734, 888
 『殖産局苗圃苗木代価目録』 204, 209, 211
 壬午軍乱 16, 650, 651, 655, 660
 仁済大学校(仁済医科大学) 855, 859
 真宗大谷派 424, 432, 445, 647, 648, 650,
 651, 654, 655, 660
 清国行政法 10, 109, 110, 142, 158
 紳士遊覧団 649
 新亞同盟党 666~669, 671, 677, 678
 新建親軍 651
 『新興』 48, 907, 935
 新人会 836
 『新台湾』 458~460
 『新朝鮮』 16, 680, 681, 683, 684, 686, 687,
 689, 690, 692
 新日本文学会 756, 757, 768, 772
 『新法学全集』 594, 595
 新民会 679
 震檀学会 39, 45
 親日派 41~43, 48

極東諸国農村衛生会議(Intergovernmental
 Conference of Far-Eastern Countries
 on Rural Hygiene) 569
 極東熱帯医学会(Far Eastern Association
 of Tropical Medicine, FEATM) 15,
 530, 547, 556, 559, 570~575, 577
 近代の超克 44, 878
 金日成総合大学 20, 841, 849, 851, 890,
 899, 915, 916, 926, 934
 権友会 688
 く
 久保事件 530
 久保田発言 760
 け
 ケロッグ・ファウンダーシヨン612~614
 ケロッグ=ブリアン協定(パリ不戦条
 約) 612, 614
 刑大大全 26
 京師警察庁試験公共衛生事務所 524
 京城医学専門学校(京城医専) 19, 45, 526
 ~530, 532, 538, 541, 545, 547, 548,
 561, 563, 845, 856, 858~860, 865
 京城学派 36, 46, 48, 263, 588, 589
 京城高等工業学校 390, 397, 845
 京城女子医学専門学校 557
 京城大学 44, 849, 870, 878, 879, 893, 894
 京城帝国大学 11, 14, 15, 18, 20, 30, 34~
 39, 41, 44, 45, 47, 48, 75, 261~269,
 271~274, 276, 278~280, 285, 286,
 288, 390, 433, 523, 527, 529, 530, 533
 ~553, 560, 561, 563, 587~590, 593,
 594, 603, 608, 611, 624, 626, 631, 635,
 748, 752, 753, 761, 769, 777~780,
 783, 786, 787, 791, 792, 794, 802, 803,
 835, 836, 842, 843, 857, 873~875,
 891~894, 899, 905~907, 909, 911,
 912, 914, 917, 926
 京城法学専門学校 840, 873
 慶應義塾大学 559, 560, 710, 789, 844
 玄洋社 454, 456, 473, 477, 480, 482, 484
 建国準備委員会 914

『現代法学全集』 594, 595, 606
 憲法(大日本帝国憲法, 明治憲法) 103,
 106, 111~114, 134, 135, 235, 587,
 598, 610, 679, 777

こ

コロンビア大学 633, 699
 五営軍 649
 工部大学校 369, 375, 392
 公学校(台湾) 17, 162, 166, 677, 698~700,
 717, 720, 721, 723, 725~729
 公衆衛生院(日本) 524, 533, 540, 551, 561
 甲申政変(甲申事変) 16, 652, 924
 江華育英学校 657
 光州郷校 657
 光州実業学校 16, 639, 654~659
 皇民化運動/皇民化政策 143, 184, 235,
 248, 251, 252, 357, 728~730
 恒春熱帯植物殖育場
 12, 211, 230, 296, 314, 315
 高等文官試験(文官高等試験) 261, 491,
 497, 503, 505, 517, 521, 710, 770, 838
 高等法院 →「台湾総督府高等法院」,「朝
 鮮総督府高等法院」を見よ
 高麗大学校 841
 控訴院 285
 鉱業権 275, 603, 604, 607, 630
 興亜会 647
 興士団 19, 861, 862, 865
 国旗掲揚事件 758
 国語学校(台湾)
 185, 468, 698, 719~721, 723, 735, 737
 国債償還運動 658
 国際基督教大学(ICU) 610
 国際結核会議(International Congress on
 Tuberculosis) 530
 国際連盟 466, 524, 531, 532, 534, 553, 558,
 569, 570
 ——衛生技術官交換会議 532, 535
 ——極東支部シンガポール伝染病情報局
 (Eastern Bureau of Epidemiological
 Information) 532, 558, 569~571, 574
 ——保健機関(League of Nations Health

tutes of Health) 578
 アメリカ国立科学財団(National Science Foundation) 578
 アメリカ対外活動本部(Foreign Operations Administration, FOA) 579
 『亜細亜時論』 499, 519
 亞洲和親会 666, 667, 675
 愛国啓蒙運動 25, 658, 660

い

イエール・イン・チャイナ(Yale-in-China) 613
 イエール大学 613~615, 618, 633
 インド 14, 47, 69, 136, 150, 255, 379, 401, 402, 404, 410, 483, 499~502, 508, 519, 520, 530, 565, 568, 572, 666
 伊藤病院 794, 795 → 【人名】「伊藤尹」も見よ
 医生 40, 530
 依用 11, 26, 28, 262, 277, 285, 286, 289, 290
 異姓不養 270
 異姓養子 269, 278, 279
 一高 → 「第一高等学校」を見よ
 乙未事変 → 「明成皇后殺害事件」を見よ
 指宿植物試験場 315, 316, 319

う

ウェストファリア体制(条約) 569~572, 574, 581
 雨夜花 729, 731, 734

え

『英国殖民誌』 507, 508
 延禧専門学校 45, 840, 901, 911, 936 → 「延世大学校」も見よ
 延世大学校 45, 870, 871 → 「延禧専門学校」も見よ
 『園芸文庫』 204, 215, 233

お

オリエンタリズム 27, 32, 35, 848, 870
 大須事件 755

大谷派 → 「真宗大谷派」を見よ

か

カールトン・カレッジ(Carleton College) 608~615, 618, 633, 634
 ガヤ(ガガア) 129~132
 科挙 646, 649, 720
 鹿児島高等農林学校 12, 295~320
 開化派 16, 25, 639, 647~649, 652~654, 656, 660
 『革新時報』 → 『東亜時報』を見よ
 宦官 278, 279
 宦遊詩人 204, 214, 215, 217, 223
 漢族 118, 127, 146, 155~157, 173, 176, 177, 190, 234, 707, 722, 732
 関東大震災 381, 392, 533, 757, 772, 900, 902, 903, 905, 926
 韓医学 19, 26, 38, 40, 41, 530, 855, 857, 858
 『韓国布教日記』 655

き

畿湖興学会 658
 北里研究所(伝染病研究所の後身) 529~531, 538, 546, 559
 九州帝国大学(九州大学) 19, 48, 264, 320, 375, 836, 841~845, 870, 873, 874, 891, 892, 896
 旧慣調査会 → 「臨時台湾旧慣調査会」を見よ
 旧友倶楽部 748, 771
 『急就篇』 705
 救護法(1929年) 596, 600, 601
 共産党 → 「中国共産党」, 「朝鮮共産党」, 「日本共産党」を見よ
 京都帝国大学 9, 45, 48, 101~103, 105~110, 118, 119, 122, 126, 141, 150, 188, 237, 258, 263, 332, 362, 374, 375, 381, 382, 395, 448, 629, 767, 804, 835~843, 845, 852, 901
 協和医学校(Union Medical College) 524, 526, 537, 539, 542, 544, 548
 郷班 644, 645, 659

林呈禄[Lin Chenglu] 242, 257
 林茂生[Lin Maosheng] 695, 699, 709

る・れ・ろ

ルーカス(Charles Prestwood K.C.B. Lucas) 507, 508
 ルウェリン(Karl N. Llewellyn) 617, 633
 レストン(James Reston) 579
 ローズヴェルト, フランクリン(Franklin D. Roosevelt) 609, 618, 619, 624, 633
 ロックフェラー(John D. Rockefeller) 525 → 【事項】「ロックフェラー財団」も見よ
 ローデル(Fred Rodell) 614, 615, 618
 呂赫若[Lu Heruo] 76
 ロック(John Locke) 588, 624, 626

わ

ワイグル(Richard D. Weigle) 611, 613, 614
 我妻栄 126, 265, 266, 606
 若宮卯之助 670
 綿引朝光 527, 538, 540~542, 545, 546, 548, 550, 564
 渡部義通 919
 渡俊治 705, 712
 王寿福(ワン・スポク) 914, 916, 917

【事項】

A~Z

CMB → 「ロックフェラー財団中国医療財団」を見よ
 DDT 散布事業 579
 FEATM → 「極東熱帯医学会」を見よ
 FOA → 「アメリカ対外活動本部」を見よ
 GHQ (General Headquarters, the Supreme Commander for the Allied Powers, 連合国軍最高司令官総司令部) 577, 746, 750, 759, 760, 768, 789
 IHD → 「ロックフェラー財団国際保健部」を見よ
 LNHO → 「国際連盟保健機関」を見よ
 MSA → 「相互安全保障法」を見よ
 RF → 「ロックフェラー財団」を見よ
 UNRRA → 「連合国救済復興機構」を見よ
 WHO (World Health Organization, 世界保健機関) 15, 567~569, 575~579

あ

アイルランド(愛蘭) 14, 47, 48, 490, 499~502, 504~506, 508, 509, 519, 520, 522
 アジア財団 851
 アジア主義 16, 249, 431, 455, 466, 480, 499, 508, 509, 647, 648, 655, 659, 668, 670, 673~675, 677, 678, 685
 アジアの生産様式 19, 869, 870, 873~877, 881~885, 889, 890, 892, 893, 895, 918, 920
 アチック・ミュージアム (Attic Museum, 後に日本常民文化研究所) 848
 アミ(族) 129, 133, 144, 154, 161~163, 166, 168, 174, 175, 187, 188, 190
 アメリカ医師会(American Medical Association) 576, 577
 アメリカ国立衛生研究所(National Insti-

関泳綺(ミン・ヨンギ) 426
関泳結(ミン・ヨンギル) 656

む

無仏 → 「阿部充家」を見よ
村常男 758
村山智順 31, 440

め

メイン(Henry S. Maine)
105, 131, 132, 136, 152
明成皇后(閔妃) → 【事項】「明成皇后殺
害事件」を見よ

も

持永義夫 594, 629
森丑之助 128, 129, 149, 153, 155, 156, 158,
161, 186
守中清 782, 788, 789, 793~800, 807, 809
森谷克己 875, 907

や

八尋生男 12, 327~360
矢内原伊作 767
矢内原忠雄 74, 767
安井勝次 120, 122, 125
安田幹太 263~265, 269, 270, 272, 287
安原信三 129, 168, 169, 174, 178, 189
安平政吉 249
柳田国男 104, 142, 179, 180, 518, 708, 714
山縣伊三郎 503
山崎今朝弥 676
山崎延吉 12, 329~331, 346, 348~352,
354, 356, 357, 359
山田三良 150, 266, 287
山田金治 210
山田不耳 197, 198
山中康雄 265~270, 274, 275, 287
山脇正次 750

ゆ

兪日濬(ユ・イルジュン) 858, 860
兪鎮午(ユ・ジノ) 844, 878, 890, 891, 893,

906~911, 913, 914, 916, 917, 926

湯浅倉平 545
湯浅八郎 608, 610~612
尹日善(ユン・イルソン)
842, 843, 845, 911, 936
尹仁上(ユン・インサン) 902, 905
尹雄烈(ユン・ウンニョル) 16, 639~660
尹君正(ユン・グンジョン) 640, 641
尹取東(ユン・チドン) 644, 645
尹致昊(ユン・チホ)
16, 639, 645, 646, 649~652, 659, 660
尹得実(ユン・トゥクシル) 643, 644
尹斗寿(ユン・ドゥス) 643
尹行重(ユン・ヘンジュン)
841, 843, 876, 879, 893~895

よ

葉榮鐘[Ye Rongzhong] 726
楊達[Yang Kui] 76
楊佐三郎[Yang Zuosanlang] 726
吉川清一 774
吉田茂 747, 750
吉野作造 671, 674
吉村源太郎 14, 490, 496~502, 504, 508,
509, 511, 512, 517~520
吉村善臣 367, 382, 384~386, 412

ら

ライヒマン(Ludwick W. Rajchman)
532, 535, 570, 571, 573, 574
ラスキ(Harold J. Laski) 615
頼和[Lai He] 76

り

リップマン(Walter Lippmann) 623
李金土[Li Jintu] 725
李獻璋[Li Xianzhang] 697, 707, 709, 714
李大釗[Li Dazhao] 667, 677
李達(鶴鳴)[Li Da] 663, 664, 676, 677
李坪 → 「小林里平」を見よ
龍瑛宗[Long Yingzong] 76
林錦鴻[Lin Jinhong] 726
林獻堂[Lin Xiantang] 679

徳富蘇峰 429, 466, 565, 670
伴野喜四郎 251, 252
鳥居龍蔵 128, 154, 161, 163, 183, 186, 188

な

名越二荒之助 773
中川善之助 253, 260
中島正樹 774
中田薫 244
中野正剛 473, 484
中原和郎 559
中村健太郎(三笑)
428~430, 432, 433, 436
中村是公 106, 373
中村寅太 756
中村栄孝 29
中村弥三次 595, 597
中安閑一 774
中保与作 759
永野重雄 774
長尾半平
12, 366, 367, 372~375, 378, 392, 401
長岡護美 647
灘尾弘吉 601, 602, 629

に

新渡戸稲造
211, 220, 302, 373, 491, 492, 515
西岡英夫 221, 222, 234
西亀三圭 527
西野辰吉 758

の

盧天命(ノ・チョンミョン) 913, 914
盧東奎(ノ・ドンギユ) 901, 912, 936
盧榮漢(ノ・ヨンハン) 771
乃木希典 111, 142~144, 373

は

ハイザー(Victor G. Heiser) 527, 528, 537,
540, 541, 556, 561, 570, 572~574,
577
パウンド(Roscoe Pound) 609, 633

ハケット(Lewis W. Hackett) 572
バルトン(William K. Burton) 366
羽鳥重郎 559
波多野鼎 874, 877, 891, 892, 896
長谷川謹介 366, 373, 375, 395
長谷川重三郎 774
長谷野格 241
萩原彦三 363, 752~754
朴殷植(パク・ウンシク) 900, 926
朴克采(パク・グクチェ)
841, 843, 879, 894
朴正熙(パク・チョンヒ) 774
朴文圭(パク・ムンギユ)
843, 879, 906~908
朴泳孝(パク・ヨンヒョ)
426, 647, 651, 653
旗田巍 757, 758, 767, 773
八田興一 79, 366, 367, 374, 375, 406
服部烏亭 198
服部宇之吉 533, 536, 542, 552, 560
早川二郎 920
林茂樹 750, 752~754, 761
原敬 240, 682, 683
原田大六 771
范浣浦[Fan Huanpu] 214, 215
咸錫憲(ハン・ソクホン) 901
坂義彦 11, 247~250, 258
韓龍雲(ハン・ヨンウン) 13, 439, 443

ひ

ピアース(Richard M. Pearce)
527, 528, 533, 540, 544, 546, 547, 549
東川徳治 110, 127, 128, 181
久水三郎 655
下沃柱(ピョン・オクチュ) 852

ふ

ブーツ(John. L. Boots) 528
ファウンド(Norman Found) 528
ファン(Fang I-Chi, 方頤積[Fang Yiji])
577
フランクファーター(Felix Frankfurter)
615, 633

473~480
 田中きわの(極野) 13, 453~481
 田中二郎 599
 田中正 455, 456, 467, 476, 478
 田中武雄 749, 771
 田中穂積 704, 712
 田辺操 546, 547
 田保橋潔 29
 戴炎輝[Dai Yanhui]
 11, 244~246, 253, 254
 高木友枝 373, 559
 高木八尺 608
 高楠栄 549, 550, 563
 高嶋米峰 675
 高野六郎 558
 高橋功 564
 高橋亨 35, 433, 439
 高柳賢三 608
 竹井十郎 480
 谷正之 512
 玉利喜造 12, 297, 298, 302, 315, 319, 322
 檀君 → 【事項】「檀君」を見よ

ち

崔益翰(チェ・イクハン) 923, 924
 崔應錫(チェ・ウンソク)
 19, 835, 847~849, 851
 崔南善(チェ・ナムソン)
 30, 42, 43, 48, 433, 434
 崔虎鎮(チェ・ホジン) 19, 20, 845, 869~
 889, 891~896, 916, 917
 崔容達(チェ・ヨンダル) 843, 906~908
 張赫宙(チャン・ヒョクチュ) 757
 周時経(チュ・シギョン) 45
 趙伯顯(チョ・バクヒョン) 842~845
 曹奉岩(チョ・ボンアム) 851
 曹寧柱(チョ・ヨンジュ) 771
 張維賢[Zhang Weixian] 726
 張深切[Zhang Shenqie] 76
 張湄[Zhang Mei] → 「張鷺洲」を見よ
 張福興[Zhang Fuxing] 725
 張文環[Zhang Wenhuan] 76
 張鷺洲[Zhang Luzhou] (張湄)

206, 214, 215, 217, 218
 鄭寅普(チョン・インポ) 38
 全錫淡(チョン・ソクダム) 879
 丁若鏞(チョン・ヤギョン)
 923~925, 934
 陳逸松[Chen Yisong] 726
 陳運旺[Chen Yunwang] 726, 727
 陳君玉[Chen Junyu] 730
 陳植棋[Chen Zhiqi] 724
 陳澄波[Chen Chengpo] 726
 秦学文(チン・ハンムン) 771

つ

津田左右吉 17, 695, 700, 703~706, 708,
 709, 713, 714
 辻清明 626
 恒藤恭 596
 恒藤規隆 299~301, 319
 坪井正五郎 153, 154, 159~161, 186, 188
 壺井繁治 757, 767, 772
 鶴見三三 531, 559

て

手島兵次郎 120, 122
 鄭松筠[Zheng Songyun] (鄭雪嶺)
 241, 242, 256, 697~699
 寺内正毅 423, 429, 439, 493, 670, 767
 暉峻義等 849

と

都有浩(ト・ユホ) 846, 920~923
 土光敏夫 774
 戸水寛人 376
 鄧雨賢[Deng Yuxian]
 17, 717~733, 737~739
 陶希聖[Tao Xisheng] 704
 鄧旭東[Deng Xudong]
 719~722, 735, 737
 頭山満 455, 456
 時枝誠記 48
 時永浦三 14, 490, 500, 503~506, 508, 509,
 521, 522
 徳川家達 426

小林里平(李坪) 10, 194~224, 227, 230, 231
 小松吉久 196~199, 202, 225
 小山節夫 747
 児島惟謙 252
 児玉源太郎 101, 104, 111, 112, 119, 143,
 145, 373, 374, 376, 380
 後藤新平 9, 102~106, 108, 110, 111, 117,
 119, 120, 126, 136, 141, 142, 182, 183,
 188, 371~374, 376, 378, 491~493,
 497, 507, 513, 516, 524, 705, 710, 713
 上瀧基 752~754, 764, 765
 河野喜六 129, 154, 169, 174, 175, 177,
 178, 187, 190
 国分直一 178
 近衛篤磨 654, 655
 駒井徳三 493
 近藤纈一 750, 752~754, 763

 さ
 サヴィニー(Friedrich Carl von Savigny) 239, 244, 245
 サトウ, アーネスト(Ernest M. Satow) 16, 648, 649, 659
 佐々木惣一 109, 599
 佐々木直 765
 佐々木統一郎 788, 801
 佐藤栄作 767
 佐藤剛蔵 547, 549
 佐藤文比古 789, 790, 831
 佐山融吉 10, 129, 153, 154, 158~167, 169,
 174, 175, 177, 188, 190
 斎田功太郎 207
 斎藤実 33, 423, 424, 430, 432, 504, 531, 545
 坂口禰子 455
 堺利彦 664, 666, 675, 676, 692

 し
 シダコフ(Bresnitz von Sydačoff) 493
 シュミット(Carl Schnitt) 592, 593
 志賀潔 14, 36, 523~525, 527~553, 556,
 558, 559, 561, 562, 564, 565

四方博 47, 906, 907
 椎尾弁匡 425
 品川彌二郎 503
 渋沢栄一 426
 渋沢敬三 751, 847, 848
 渋谷礼治 748, 750~754, 771, 772
 下岡忠治 426
 下村宏(海南) 751, 752
 鍾璧輝[Zhong Bihui] 11, 249~251, 254
 白鳥庫吉 705, 713
 白仁武 497, 515
 申南徹(シン・ナムチョル) 39, 45, 841, 843, 907

 す
 末弘巖太郎 594, 595, 604, 606, 607
 末松保和 752, 753
 杉原徳行 36
 杉本勝次 750
 杉山輯吉 367, 369~372, 399
 鈴木清 791
 鈴木武雄 748, 752, 753, 761, 762, 907
 鈴木直吉 782, 783, 793~795, 797~801, 808

 せ
 関与三郎 703, 711, 712
 善生永助 31, 748, 753

 そ
 ソーヤー(Wilbur A. Sawyer) 572
 徐寅植(ソ・インシク) 43
 徐甲虎(ソ・ガフホ) 765
 徐光範(ソ・グァンボム) 653
 徐載弼(ソ・ジェピル) 19, 653, 861, 862, 865
 曹秋圃[Cao Qiupu] 726
 相馬愛蔵 704, 708, 712
 孫元衡[Sun Yuanheng] 214, 215, 232

 た
 田代安定 11, 12, 211, 230, 295~320, 324
 田中一二 13, 454~456, 458, 461~465,

上内恒三郎 122, 247
 神谷俊一 12, 296, 320, 322
 川上浩二郎 366, 367, 374, 402
 川上瀧彌 208~213, 218, 223, 229~231
 川島武宜 626
 川村十二郎(五峰) 428, 436
 河東碧梧桐 196, 198, 199, 203
 姜瑋(カン・ウイ) 647
 姜鋌澤(カン・ジョンテク)
 841, 842, 847, 848, 894
 姜錫天(カン・ソクチョン)
 902, 904, 905, 929

き

ギールケ(Otto von Gierke) 592, 593, 599
 木下広次 106, 110
 菊池勇夫 595
 岸謙 753, 754, 763
 雉本朗造 109, 119, 120
 北里柴三郎 529, 536, 540, 559
 君島一郎
 745, 750~754, 762, 764~766, 769
 金日成(キム・イルソン) 924, 925
 →【事項】「金日成綜合大学」も見よ
 金玉均(キム・オクキュン) 647, 652, 653
 金綺秀(キム・ギス) 646
 金洸鎮(キム・グァンジン)
 20, 873, 890, 899~926
 金史良(キム・サリヤン) 757
 金壽卿(キム・スギョン) 45
 金性洙(キム・ソンズ) 878, 908, 911
 金達寿(キム・ダルス) 757
 金昌世(キム・チャンセ)
 528, 536, 537, 541, 553
 金斗憲(キム・ドゥホン)
 841, 844, 845, 936
 金道泰(キム・ドテ) 861
 金熙圭(キム・ヒギユ) 862
 金柄夏(キム・ビョンハ) 884
 金弘集(キム・ホンジブ) 646
 金明植(キム・ミンシク) 43
 許炎亭[Xu Yanting] 726
 清浦奎吾 426

清宮四郎 263, 589, 594, 635

く・け

グリーン(Leon Green) 615
 グリーン(Roger S. Greene)
 537, 540, 541, 544~547, 556, 562
 グッドリッチ(Luthur C. Goodrich) 556
 クラブトリー(James A. Crabtree) 576
 グラント(John B. Grant)
 537~543, 546, 549, 572, 573
 具鎔書(ク・ヨンソ) 902, 903
 久保田豊 748, 750, 753, 774
 権逸(クオン・イル) 771
 権贊(クオン・チャン) 640
 陸羯南 202, 203, 227
 栗原一男 266, 287
 黒板勝美 29, 432
 黒岡帯刀 378
 桑田六郎 696
 ケルゼン(Hans Kelsen)
 609, 610, 625, 631, 632
 ケロッグ(Frank B. Kellogg) 612, 632,
 633 →【事項】「ケロッグ・ファウ
 ンデーション」も見よ

こ

コーラー(Josef Kohler)
 106, 133, 135, 152
 コッホ(Robert Koch) 535
 コンラート(Johannes E. Conrad)
 507, 508, 513
 胡適[Hu Shi] 704, 712
 高宗(コジョン) 651, 654
 辜顯榮[Gu Xianrong] 242
 呉鳳[Wu Feng] 177
 小泉鉄 131
 小島由道 10, 128, 154~158, 166~174,
 177~179, 181, 188
 小西春雄 750~753, 772
 小林源六 426, 430
 小林晴治郎 542
 小林躋造 143, 184, 479
 小林保祥 169, 178~181, 191

稲葉岩吉(君山)	29, 440
猪木正道	767
今西龍	29
今村軻	31
今村豊	791, 794, 807
印貞植(イン・ジョンシク)	43, 875

う

ウィルソン(Robert M. Wilson)	526
ウィルバー(Ray L. Wilbur)	541~544, 562, 563
ヴォリス(John M. Vorys)	579
宇垣一成	352, 471, 545, 565
宇佐美洵	765
鶉飼信成	15, 587~590, 593~599, 601~604, 606~614, 618~621, 623~627, 631, 632, 634
植村甲午郎	754, 765, 774
元心昌(ウォン・シムチャン)	771
内田嘉吉	120, 124, 143
梅謙次郎	27, 107

え

エヴァンス(Roger F. Evans)	850
エヴィソン(Oliver R. Avison)	526~528, 556
エングラー(Adolf H. G. Engler)	207, 228
江頭豊	774
袁世凱[Yan Shikai]	653, 667

お

魚允中(オ・ユンジュン)	649
小川徹	848
小倉進平	35
小田省吾	29
小田幹治郎	31
小田安馬	542
尾高朝雄	48, 263, 589, 594, 635, 748
緒方竹虎	750~754, 772
織田萬	107, 109, 110, 118, 183, 597
鉦鹿赫太郎	202
大内丑之助	14, 490~496, 502, 506~509, 514~516

大隈重信	654
大越大藏	366, 367, 388, 404
大杉栄	666, 675
大谷光演	432
大津麟平	10, 120, 122, 128, 153, 155, 156, 158, 168, 172, 182, 183

大塚金之助	903, 916
大西良慶	432
大橋武夫	746
大宅壮一	758
岡松参太郎	9, 10, 101~136, 138, 142, 148~155, 157, 158, 168, 174, 178, 180~183, 186~188, 191, 201, 237, 255, 256, 373
岡松甕谷	106
岡本芳二郎	493
奥野信太郎	758
奥村五百子	16, 654, 655, 659
奥村円心	647, 651, 654, 655, 658, 659
折口信夫	142

か

カーター(William S. Carter)	541, 546~549, 564, 565
カウリング(Donald J. Cowling)	612
カルドーズ(Benjamin N. Cardozo)	623
ガン(Selskar Gunn)	574, 583
柯丁丑[Ke Dingchou]	725
加藤完治	346~348, 363
加藤増雄	655
狩野直喜	109, 110, 118
鹿島守之助	774
戒能通孝	266, 287
郭一舟[Guo Yizhou] → 「郭明昆」を見よ	
郭天留[Guo Tianliu]	726
郭明昆[Guo Mingkun] (郭一舟)	17, 695, 696, 699, 700, 703~709, 713
笈克彦	347~349, 354~356, 359, 928
桂太郎	142, 373, 379, 380, 493, 507
金閼丈夫	709
金平亮三	210
樺山資紀	142, 373

索引

*朝鮮人名は韓国語読みを日本語50音順に排列し、台湾人名は漢字の日本語読みで排列した。地名は漢字の日本語読みで排列した。

【人名】

あ	
アーノルド(Thurman W. Arnold)	615, 621, 624, 633
安倍能成	909
阿部真言	473, 484
阿部充家(無仏)	33, 429, 432
阿部吉雄	35
足立正	765
愛久澤直哉	201
青木洪(洪鐘羽)	757
青柳篤恒	705
青山公亮	696
明石元二郎	143, 405, 670
赤松智城	35
秋葉隆	35
姉齒松平	243
有泉亨	265, 266, 271, 272, 274~279, 287
有松英義	493
安在鴻(アン・ジェホン)	38, 667
安昌浩(アン・チャンホ)	19, 861, 864, 865
安東嶽(アン・ドンヒョク)	841, 843, 845
安悦(アン・ヨル)	640
安藤豊祿	765, 774
い	
イエリネック(Georg Jellinek)	599
李康友(イ・ガンウ)	765
李康国(イ・ガングク)	842, 906, 907
李光洙(イ・グァンス)	42, 48
李克魯(イ・クンノ)	846, 936
李相佰(イ・サンベク)	705, 706, 708, 713~715

李祖淵(イ・ジョヨン)	646
李升基(イ・スンギ)	838, 842, 846
李承晩(イ・スンマン)	580, 759, 761, 861, 863, 865
李達(イ・ダル)(李東宰)	16, 663~688
李清源(イ・チョンウォン)	846, 876
李東仁(イ・ドンイン)	16, 647, 648, 659
李東華(イ・ドンファ)	851, 852
李能和(イ・ヌンファ)	30
李丙燾(イ・ピョンス)	30, 842~844
李晦光(イ・フェグァン)	432
李勲求(イ・フング)	43
李萬甲(イ・マンガプ)	19, 835, 847, 849~851
李完用(イ・ワニョン)	426
井出季和太	148
井上円了	671, 674, 675
伊沢修二	144
伊豆凡夫	475
伊藤尹	795, 800
伊藤博文	27, 456, 473, 900
伊藤政重	456
伊藤正義	541, 542, 545, 546, 561
伊能嘉矩	128, 144, 155, 158, 185, 200, 201, 213, 220, 230
飯田貫一	884, 895
池田清	749, 750
石井常英	120, 122, 124, 256
石川登盛	527
石川了因	650, 655, 660
石坂音四郎	101, 102, 109, 110, 119, 120, 122~125
石本鎖太郎	494
石原莞爾	44
磯永吉	296
磯田勇治	367, 370~372, 399
一条慎三郎	724, 725, 736

通堂あゆみ (つうどう あゆみ)

1981年生。東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了。博士(文学)。武蔵高等学校中学校教諭。「京城帝国大学法文学部の再検討——法科系学科の組織・人事・学生動向を中心に——」(『史学雑誌』第117巻第2号, 2008年)。「京城帝国大学医学部における一九四五年八月一五日以降の博士学位認定について」(『朝鮮学報』第234号, 2015年)。

鄭 鍾 賢 (チョン・ジョンヒョン)

1972年生。東国大学校大学院国語国文学科博士課程修了。仁荷大学校韓国語文学科副教授。『東洋論と植民地朝鮮文學』(創批, 2011年)、『検閲の帝国——文化の統制と再生産——』(編著, 新曜社, 2014年)、『大韓民國 讀書史』(西海文集, 2018年)。

朴 潤 栽 (パク ユンジェ)

1966年生。延世大学校大学院博士課程卒業。文学博士。慶熙大学校史学科教授。『한국 근대의학의 기원 (韓國近代醫學の起源)』(ヘアン, 2005年)。「朝鮮総督府の牛痘政策と朝鮮人の反応」(松田利彦編『植民地帝国日本における支配と地域社会 第40回国際研究集会』国際日本文化研究センター, 2013年)。

宋 炳 卷 (ソン ビョンクォン)

1969年生。東京大学大学院総合文化研究科博士後期課程単位取得退学(東アジア国際関係史)。博士(学術)。延世大学校近代韓国学研究所 HK 研究教授。『東アジア地域主義と韓日米関係』(クレイン, 2015年)。「日本の戦時期東亜国際秩序認識の戦後の変容——‘大東亜国際法秩序’論と植民地問題——」(『史林』61号, 2017年, 韓国語)。

洪 宗 郁 (ホン ジョンウク)

1970年生。東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了。博士(文学)。ソウル大学校人文学研究院副教授。『戦時期朝鮮の転向者たち——帝国／植民地の統合と亀裂——』(有志舎, 2011年)、『梶村秀樹の内在的発展論を読みなおす』(共著, 高麗大学校亜細亜問題研究所出版部, 2015年, 韓国語)。

劉 士 永 (Michael Shiyung Liu)

1964年生。ピッツバーグ大学大学院歴史研究科博士課程修得。博士(医学史)。元中央研究院台湾史研究所研究員、上海交通大学歴史系特聘教授。Michael Shi-Yung Liu, Jun. 2009, *Prescribing Colonization: the Role of Medical Practice and Policy in Japan-Ruled Taiwan*, Ann Arbor, Michigan: AAS. Michael Shiyung Liu, Sept. 2014, "Epidemic control and wars in Republican China (1935-1955)", *Extrême-Orient, Extrême-Occident*, 37, 111-140.

長 沢 一 恵 (ながさわ かずえ)

1970年生。関西大学大学院文学研究科史学専攻博士後期課程単位取得退学。修士(文学)。近畿大学、天理大学、奈良大学、佛教大学各非常勤講師。「植民地朝鮮の民間鉱業の地域動向と「鉱業警察」の設置——鉱業近代化における社会法規の形成をめぐる——」(松田利彦・陳延媛編『地域社会から見る帝国日本と植民地——朝鮮・台湾・満洲——』思文閣出版, 2013年)、「ワシントン条約体制下の青島における領事館警察について——1922年膠州湾租借地返還交渉を中心に——」(『人文学報』第106号, 京都大学人文科学研究所, 2015年)。

山 本 浄 邦 (やまもと じょうほう)

1973年生。佛教大学大学院文学研究科東洋史学専攻博士後期課程修了。博士(文学)。佛教大学総合研究所特別研究員。『韓流・日流——東アジア文化交流の時代——』(編著, 勉誠出版, 2014年)。『大谷光瑞とアジア——知られざるアジア主義者の軌跡——』(共著, 勉誠出版, 2010年)。

小 野 容 照 (おの やすてる)

1982年生。京都大学大学院文学研究科博士後期課程修了。博士(文学)。九州大学大学院人文科学研究院准教授。『朝鮮独立運動と東アジア 1910-1925』(思文閣出版, 2013年)。『帝国日本と朝鮮野球——憧憬とナショナリズムの隘路——』(中央公論新社, 2017年)。

紀 旭 峰 (き きょくほう)

早稲田大学大学院アジア太平洋研究科博士課程満期退学。博士(学術)。早稲田大学地域・地域間研究機構 研究院准教授。「大正期台湾人留学生寄宿舎高砂寮の設置過程」(『日本歴史』第722号, 吉川弘文館, 2008年)。『大正期台湾人の「日本留学」研究』(龍溪書舎, 2012年)。

何 義 麟 (か ぎりん)

1962年生。東京大学大学院総合文化研究科学術博士取得。博士(学術)。国立台北教育大学台湾文化研究所教授。『二・二八事件——「台湾人」形成のエスノポリティクス——』(東京大学出版会, 2003年)。『台湾現代史——二・二八事件をめぐる歴史の再記憶——』(平凡社, 2014年)。

李 炯 植 (イ ヒョンシク)

1973年生。東京大学人文社会系研究科(日本史研究室)博士課程修了。博士(文学)。高麗大学校亜細亜問題研究所副教授。『朝鮮総督府官僚の統治構想』(吉川弘文館, 2013年)。『斎藤実・阿部充家 往復書簡集』(아연출판부, 2018年)。

岡崎まゆみ (おかざき まゆみ)

1985年生。明治大学大学院法学研究科博士後期課程退学。博士(法学)。立正大学法学部講師。「帝国日本における植民地の法」(高谷知佳・小石川裕介編『日本法史から何がみえるか』有斐閣, 2018年)。「総督府判事・野村調太郎の法思想と裁判実務への影響」(松田利彦・岡崎まゆみ編『植民地裁判資料の活用』国際日本文化研究センター, 2015年)。

やまだあつし

1964年生。大阪市立大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。文学修士。名古屋市立大学大学院人間文化研究科教授。『中国と博覧会——中国2010年上海万国博覧会に至る道——』[第二版](共編著, 成文堂, 2014年)、『日本の朝鮮・台湾支配と植民地官僚』(共編著, 思文閣出版, 2009年)。

本間千景 (ほんま ちかげ)

1960年生。佛教大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。博士(文学)Ph. D. 京都女子大学・佛教大学・龍谷大学非常勤講師。『韓国「併合」前後の教育政策と日本』(思文閣出版, 2010年)、『韓国民衆口述列伝47 스기야마 토미 1921년 7월 25일생 (杉山とみ 1921年7月25日生)』(記録: 本間千景, 翻訳: 申鎬, 20世紀民衆生活史研究団(논빛), 2011年)。

蔡龍保 (さい りゅうほ)

1976年生。国立台湾師範大学歴史学科卒。博士(文学)。国立台北大学歴史学科教授。『推動時代的巨輪——日治中期的台湾国有鉄路(1910-1936)——』(台湾古籍, 2004年)、『殖民統治之基礎工程——日治時期台湾道路事業之研究1895-1945——』(国立台湾師範大学歴史学系専刊(33), 国立台湾師範大学, 2008年)。

川瀬貴也 (かわせ たかや)

1971年生。東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了(宗教学・宗教史学)。博士(文学)。京都府立大学文学部准教授。『植民地朝鮮の宗教と学知——帝国日本の眼差しの構築——』(青弓社, 2009年)。

宮崎聖子 (みやざき せいこ)

お茶の水女子大学大学院人間文化研究科人間発達学専攻博士後期課程修了。博士(人文科学)。福岡女子大学教授。『植民地期台湾における青年団と地域の変容』(単著, 御茶の水書房, 2008年)、『戦後台湾における〈日本〉——植民地経験の連続・変貌・利用——』(共著, 風響社, 2006年)。

加藤道也 (かとう みちや)

1969年生。英国パーミンガム大学大学院歴史学研究科博士課程経済史専攻修了。Ph. D. in Economic History (経済史博士)。大阪産業大学経済学部教授。「植民地官僚のアジア認識」(竹内常善・斉藤日出治編『ソーシャル・アジアへの道——市民社会と歴史認識から見据える——』ナカニシヤ出版, 2012年)。「朝鮮総督府官僚の植民地統治認識——時永浦三を手掛かりとして——」(加藤道也編著『アジアの社会、経済、文化についての学際的研究』〈産研叢書 36〉, 大阪産業大学産業研究所, 2013年)。

執筆者紹介（収録順）

松田利彦（まつだ としひこ）

1964年生。京都大学大学院文学研究科現代史学専攻後期博士課程単位取得修了。京都大学博士(文学)。国際日本文化研究センター教授、総合研究大学院大学文化科学研究科教授。『日本の朝鮮植民地支配と警察——1905～1945年——』（校倉書房、2009年）、『地域社会から見る帝国日本と植民地——朝鮮・台湾・満洲』（共編著、思文閣出版、2013年）。

陳 姪 浚（ジン ジョンウオン）

1972年生。東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了。博士(文学)。(台湾)中央研究院台湾史研究所副研究員。『東アジアの良妻賢母』（勁草書房、2007年）、『日本殖民統治下の底層社会——台湾與朝鮮——』（主編、中央研究院台湾史研究所、2018年）。

春山明哲（はるやま めいてつ）

1946年生。東京大学大学院工学系研究科修士課程修了。早稲田大学台湾研究所招聘研究員。『近代日本と台湾——霧社事件・植民地統治政策の研究——』（藤原書店、2008年）。

中生勝美（なかお かつみ）

1956年生。上智大学大学院文学研究科歴史学専攻博士課程単位取得満期退学。京都大学博士(人間・環境学)。桜美林大学人文学系教授。『近代日本の人類学史：帝国と植民地の記憶』（風響社、2016年）、『中国村落の権力構造と社会変化』（アジア政経学会、1990年）。

顔 杏 如（がん きょうじょ）

1977年生。東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。博士(学術)。国立台湾大学歴史学科准教授。「歌人尾崎孝子の移動與植民地経験——在新女性思潮中航向夢想的「中間層」——」（『臺灣史研究』23巻2期、2016年）、「與帝國的腳步俱進——高橋鏡子の跨界、外地経験與國家意識——」（『臺大歷史學報』第52期、2013年）。

曾 文 亮（そう ぶんりょう）

1972年生。台湾大学法学部基礎法学科博士。博士(法学)。(台湾)中央研究院台湾史研究所助研究員。「戦後初期台湾人群众分類の調整及び法律効果」（加藤紀子訳）（馬場毅ほか編『近代台湾の経済社会の変遷——日本とのかかわりをめぐって——』東方書店、2013年）、「日本統治期台湾人の家族の旧慣——宗法の家から多重構造的戸主の家へ——」（陽遠寧・松田恵美子訳）（『名城法学』第64巻第4号、2015年）。

しよくみんちでいこくにほんちけんりよく
植民地帝国日本における知と権力

2019(平成31)年2月21日発行

編者 松田利彦

発行者 田中 大

発行所 株式会社 思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355

電話 075-533-6860(代表)

装 幀 北尾 崇 (HON DESIGN)

印 刷 本 亜細亜印刷株式会社
